

附属病院

P.01 アレルギーセンター オープン
すべてのアレルギーに対応する
地域の拠点病院を目指して。
アレルギーセンター センター長 金子 一成

P.03 整形外科 教授 就任
患者さんのQOL向上が旗印、
5年以内に関西トップの整形外科へ。
整形外科 診療部長 教授 齋藤 貴徳

P.04 麻酔科 診療教授 着任
全身管理に習熟した
エキスパートを育てたい。
麻酔科 診療教授 萩平 哲

P.05 小児外科 診療科長 教授 着任
手術が必要なお子さんを
ひとりでも多く治したい。
小児外科 診療科長 教授 土井 崇

つながる
おもい

総合医療センター

P.06 新本館開設
1周年を迎えて。
病院長 岩坂 壽二

P.07 整形外科 診療部長 教授 就任
「受診して良かった」と
実感していただける整形外科に。
整形外科 診療部長 教授 徳永 裕彦

P.08 消化器肝臓内科 診療部長 教授 就任
専門性を発揮しながら、
全人的医療を目指して。
消化器肝臓内科 診療部長 教授 西尾 彰功

P.09 不整脈治療センター センター長 着任
不整脈という病気の
正しい理解と先進の医療を。
不整脈治療センター センター長 高木 雅彦

P.10 地域医療連携部 部長 就任
地域包括ケアに貢献できる
急性期病院の役割を担って。
地域医療連携部 部長 徳原 克治

香里病院

P.11 スペシャリストインタビューシリーズ②薬剤師
薬剤師11名による
チームワークがカギ
薬剤部 部長 河野 えみ子
薬剤部 科長 金光 盟子
薬剤部 副科長 山下 博民

P.12 整形外科 診療部長 就任
「リウマチ診療といえば香里」
と言っていただけるように。
整形外科 診療部長 上田 祐輔

P.13 香里病院の夕方診療
夕診ドクター3人ご紹介
循環器内科医 吉田 進
循環器内科医 村川 紘介
神経内科医 中村 正孝

天満橋総合クリニック

P.14 開院50周年を迎え、
関西医科大学の予防医療の
拠点として、さらに進歩します。
院長 浦上 昌也

「つなぐ」
という思い。

本誌のタイトル「つなぐ+believe」には、
医療をつなぐ、命をつなぐ、願いをつなぐ、
そのために医療機関同士の信じ合えるところが支えとなるという思いを込めています。
私たちは地域医療を支える皆様との相互理解を深め、
より強固に、よりスムーズに医療連携を図っていきたくと考えています。

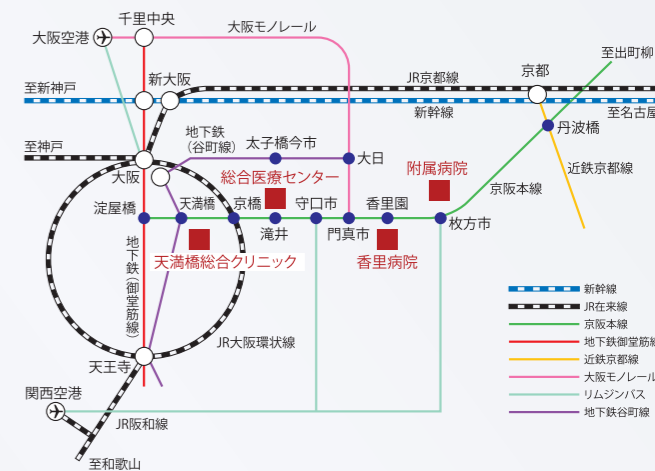
関西医科大学 地域医療センター

■ 関西医科大学附属病院
TEL.072-804-0101 (代) <http://www.kmu.ac.jp/hirakata/>
〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1
地域医療連携部 病診連携課(地域医療センター事務局)
TEL.072-804-2742 FAX.072-804-2861

■ 関西医科大学総合医療センター
TEL.06-6992-1001 (代) <http://www.kmu.ac.jp/takii/>
〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15
地域医療連携部 病診連携課
TEL.06-6993-9444 FAX.06-6993-9488

■ 関西医科大学香里病院
TEL.072-832-5321 (代) <http://www.kmu.ac.jp/kori/>
〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8-45
地域医療連携部 病診連携係
TEL.072-832-9977 FAX.072-832-9988

■ 関西医科大学天満橋総合クリニック
TEL.06-6943-2260 (代) <http://www.kmu.ac.jp/temmabashi/>
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31 (OMMビル3階)
TEL.06-6943-2260 FAX.06-6943-9827



平成 29 年
4 月 1 日

関西医科大学 附属病院
アレルギーセンター オープン

すべてのアレルギーに対応する 地域の拠点病院を目指して。

ひとりの患者さんを
各診療科の医師が
連携して治療する。

●センター開設の目的は？

何らかのアレルギー症状に悩み、来院される患者さんの中には、子どもの頃に喘息をもっていた、という方が珍しくありません。アレルギーは各器官ごとの疾患というより、その人の体質が原因。ですから、目と鼻、肌と呼吸器など、複数の症状を訴えられる患者さんも多いです。眼科や耳鼻咽喉科、皮膚科など、それぞれ個別の診療科にかかることで、アレルギー体質を治す治療や投薬を重複して受けている患者さんもかなりいらっしゃいますね。アレルギーセンターでは、医療のムダや患者さんの負担を軽減するために、各診療科の医師が情報を連携し、患者さんのアレルギー疾

2つの分院と連携し、
横断的に、均質で高度な
医療サービスの提供を。

●アレルギーセンターの特徴は？

当センターは、アレルギーの特性を反映して、根本療法を目指し、すべての症例に対応できる体制を構築し、質の高い医療サービスを提供しています。患者さんの医療情報を2つの分院、総合医療センター（守口市・滝井）・香里病院（寝屋川市・香里園）と共有し、どの病院でも専門医による均質な医療サービスを受けることが可能です。さらに、原因が不明な症例や高度な治療技術が必要な場合、専門性の高い医師

と意思疎通を図るのはもちろん、検査部や看護部、薬剤部などと協力して対応することができる、横断的な体制を構築しています。

アレルギーの考え方は、
10年前に大きな変化が。

●食物アレルギーのパラダイムシフトとは？

たとえば、卵を食べることがない人には卵に対する食物アレルギーは起きないと考えられていました。食べることでアレルギーになることを医学的な用語で「経口感作」と言いますが、食物アレルギーは、この「経口感作」によるものだと思われていました。ところが、食べたことのない人でも強いアレルギー反応を起こすことがわかってきたのです。食物アレルギーを起こす子どもは、アトピーにかかっていることが多いこともわかってきました。また皮膚がただれたところに異物が入ったことを「経皮感作」といいます。「経皮感作」が食物アレルギーの主たる経路であることも判明してきたのです。ちょうど10年程前に起こった、パラダイムシフトです。これによって既成の考え方が崩れて、食物アレルギーの「抗原感作」はアトピーによる「経皮感作」が重要であると考えられるようになりました。

大病院だからできる
経口免疫療法。

●治療面で何か特徴がありますか？

アレルギーセンターの特徴をあえてひとつだけあげるとすると、小児科で行っている「経口免疫療法」です。蕎麦アレルギーの子どもが、給食のメニューの中に蕎麦の成分が入っていたために、アナフィラキシーショックを起こして亡くなったことがニュースになりました。こういう事故をなくし、誤食しても大丈夫な体にするという目的から始まったのが「経口免疫療法」。誤って蕎麦を食べてしまっても大丈夫な体質に変えるという考え方です。

●具体的にはどんな治療なのですか？

入院していただき、まず食べても安全な摂取量を決めます。アレルギー反応を起こさないギリギリの量のことです。その量を家で試して1カ月後に再入院してチェック。大丈夫だったら少し多い量をまた1カ月間家で食べる。それを繰り返して6カ月後に一定量を食べても大丈夫な体にするという治療です。まだ研究段階の治療であるため、医師だけではなく、「経口免疫療法」を熟知した看護師や栄養管理のスペシャリストがチームでフォローする必要があることから、大病院でしかできない高度な治療と言えます。

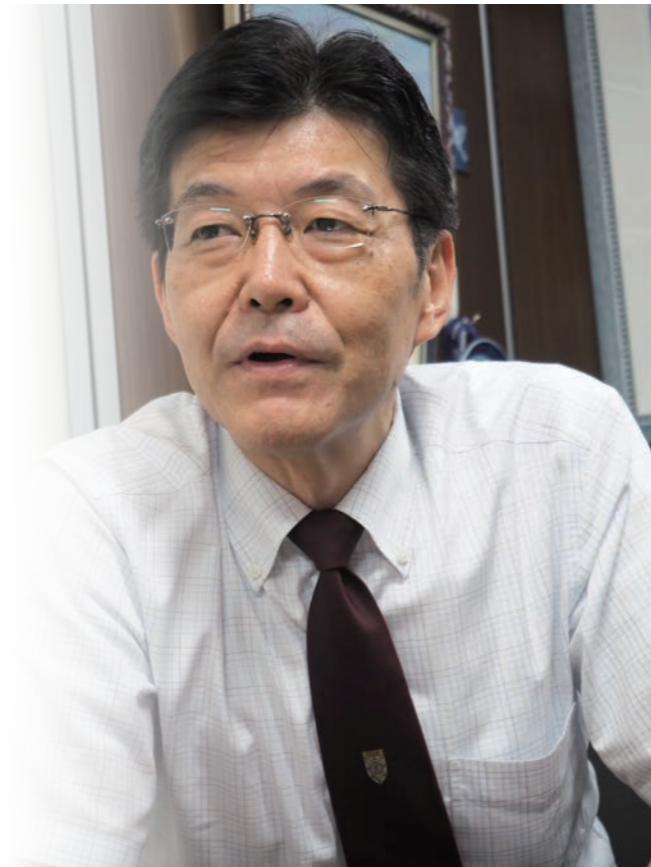
2人に1人が何らかのアレルギー疾患をもっていると言われていています。そこで、こうしたアレルギー疾患に対する集学的、拠点的な役割を担うアレルギーセンターを4月1日に開設。総合医療センターと香里病院、2つの分院を横断的に集約することで、どの病院でも専門医による均質な医療サービスを受けることが可能になりました。

アレルギーセンター センター長
関西医科大学 小児科学講座 主任教授

金子 一成 (カネコ カズナリ)

●学歴
昭和59年 新潟大学医学部卒業
平成元年 順天堂大学大学院卒業、学位取得
英国ロンドン大学附属小児病院 腎臓科留学(平成3年 帰国)

●職歴
昭和59年 順天堂大学小児科入局
平成15年 順天堂大学浦安病院 小児科 助教授
平成17年 関西医科大学 小児科学講座 主任教授
平成24年 関西医科大学 附属病院 卒後臨床研修センター長兼任
平成29年 関西医科大学 評議員



アレルギー性疾患に対する地域医療の基幹拠点病院



「このセンターで
診てもらって良かった」と
思っていただけの医療を。

●目指している医療とは？

私は小児科医ですが、診療科を問わず、これからの医療は標準化され、どの医師が担当しても同じ治療が提供できることを目指しています。そのような時代に医師になっていく学生たちによく言っているのは、医者はサービス業であるということ。「この先生は何かが違う。この先生に診てもらって良かった」と思ってもらえることが大事だということです。それは誠実に治療へ取り組

む姿勢であったり、患者さんを大切に思う気持ちであったり、丁寧にわかりやすく説明する配慮であったり、さまざまです。「ここで診てもらって良かった」と思ってもらえる、常に患者さんの立場に立って一緒に考えられるセンターにしていきたいと思っています。アレルギーは全身の病気です。患者さんを取り囲んで、あらゆる専門家が連携しながら全身のアレルギーを治していくというのが当センターの設立理念です。アレルギーでお困りの方は、全身に隠れているアレルギーを総合的に診ることができる、当センターにご相談ください。

麻酔科 診療教授

萩平 哲 (ハギヒラ サトシ)

●学歴
 昭和60年3月 大阪大学医学部 卒業
 平成 2年3月 大阪大学大学院医学研究科麻酔学 修了

●職歴
 平成 2年4月 大阪大学医学部麻酔学教室 研究生
 平成 2年6月 大阪大学医学部附属病院 麻酔科 非常勤医員
 平成 2年7月 労働福祉事業団 関西労災病院 麻酔科 医長
 平成 4年7月 大阪大学医学部麻酔学教室 助手
 平成10年7月 大阪府立羽曳野病院 麻酔科 医長
 平成14年4月 大阪府立羽曳野病院 麻酔科 部長
 平成15年7月 大阪大学大学院医学研究科 麻酔・集中治療医学講座 助手
 平成17年11月 大阪大学医学部附属病院 集中治療部 講師
 平成26年4月 大阪大学大学院医学系研究科 麻酔・集中治療医学 准教授、病院教授
 平成28年3月 大阪府立急性期・総合医療センター 麻酔科部長、中央手術部長
 大阪大学大学院医学系研究科 麻酔・集中治療医学 招へい教授
 関西医科大学附属病院 麻酔科 診療教授

平成29年4月
 ●所属学会等
 日本麻酔科学会 麻酔指導医
 日本集中治療医学会 専門医



麻酔科 診療教授
平成29年4月1日 着任

麻酔科 診療教授 萩平 哲

**全身管理に習熟した
 エキスパートを育てたい。**

同じ大阪大学の医局の出身でもある主任教授の上林先生からお誘いを受け、4月1日に着任いたしました。麻酔全般を扱いますが、とくに呼吸器外科麻酔を専門にしています。全身管理に習熟した麻酔科医を育てることが私の役割だと考えています。

**役割は全身管理に習熟した
 麻酔科医を育てること。**

麻酔科医の使命は手術を中心とした周術期の患者さんの生命と安全を守ることにあります。現在、心臓・呼吸・小児・産科・区域麻酔の各分野のエキスパートが中心となって、年間5000件以上の手術に対応しています。私は呼吸器外科を専門としており、多くの場合には研修医を指導していますが、重症の場合には私が管理することもあります。当院における私のいちばんの役割は全身管理に習熟した麻酔科医を育てることです。若い研修医たちには、私が長い時間をかけて身につけてきた技術や知識のすべてをムダなく、端的に伝えたいと思っています。

**技術だけではなく、
 周術期の考え方を伝えたい。**

麻酔科医は、手術前の患者さんの状態や術式などに合わせて最適な麻酔計画

を立てます。術中だけではなく、術後がどうなるかを考えながら、麻酔の影響から回復するまでの適切な管理も行います。計画と結果を常に冷静に検証していくことが大切です。当院にはGICU(総合集中治療室)があり、看護師などの医療スタッフと連携しながら術後の経過を管理できる体制が整っています。術後の経過を自分の目で見て理解を深め、さまざまな経験を得ることができるとは、研修医にとってたいへん恵まれた環境だと思います。

**まずは真似ること。
 その上で自分流を
 切り拓いてほしい。**

当院は大手術や重症度の高い患者さんの手術が多く、さらに救命救急センターを併設することから緊急手術も非常に多いのが特徴です。安全で的確な麻酔技術を身につける方法は、先輩のやり方を真似ることです。そして、なぜその技術が有効なのかを自分なりに考えてほしいのです。徹底して先輩のやり方を自分のものにした上で、自分なりの型を模索する。一つひとつの手術を通じて毎回新たな発見をし、習熟し、精通する。その上で自分のスタイルをつくり上げる。そんな過程を経て、患者さんや仲間にも頼られる麻酔科医になってほしいと願っています。

整形外科 教授
平成29年4月1日 就任

整形外科 診療部長 教授 齋藤 貴徳

**患者さんのQOL向上が旗印、
 5年以内に
 関西トップの整形外科へ。**

**現状維持に留まらず、
 理想の未来を実現させる。**

**患者さんの
 QOL向上のために
 先端医療の普及に貢献。**

**「断らない救命救急」
 にも参画し、いつでも
 頼れる整形外科に。」**

本院には全診療部門を揃え、先進的な治療の提供と研究・開発という機能を役割としてもたせました。総合医療センターは、臨床中心。最先端の治療を患者さんに適応させていく役割を持ち、手術枠の少ない香里病院は、後送病院としての役割を担っています。旧来、附属病院の治療分野は「股関節」「人工関節」「脊椎」「外傷」の4分野でしたが、新たに「手の外科」「スポーツ外科」を加え、6分野で構成していこうとしています。現状でできることに留まるのではなく、理想とする未来図を描き、不足かと思われる分野には、優れた専門医を招き入れたいと考えています。

高齢の患者さんに対して行う、曲がってしまった背骨をまっすぐに伸ばす手術は、患者さんの体力がもたないとの理由から、昔はあまり積極的に行われていませんでした。ですが、体力年齢が10歳近く若くなったとされる現在では、小侵襲な術式(MIST)も確立され、85歳まで治療が可能に。MISTの日本での実績においては当院がトップを誇ります。入院前は背骨が彎曲し、歩くこともままならない状態だったおばあちゃん、退院後には背筋をピンと伸ばし、おしゃべりやお化粧をして、まるで別人のような姿で外来にいらっしやう、という光景もけっして珍しくはありません。

当院に高い評価を寄せられている取り組みのひとつに、「断らない救命救急」があるかと思えます。地域の皆さんが思いがけない事故や事件に見舞われた際はもちろんです。開業医の先生方が治療に困られた際も、24時間体制で対応が可能です。整形外科という分野に求められる専門性、大病院に求められる先進性など、さまざまな使命をきつちりと果たしながら、地域のみならずの期待にもしっかりと応えていきたい。目指しているのは、5年以内に関西圏で一番の整形外科となることです。名実ともにトップとなるべく、新たな施策も進行しています。

整形外科 診療部長 教授

齋藤 貴徳 (サイトウ タカノリ)

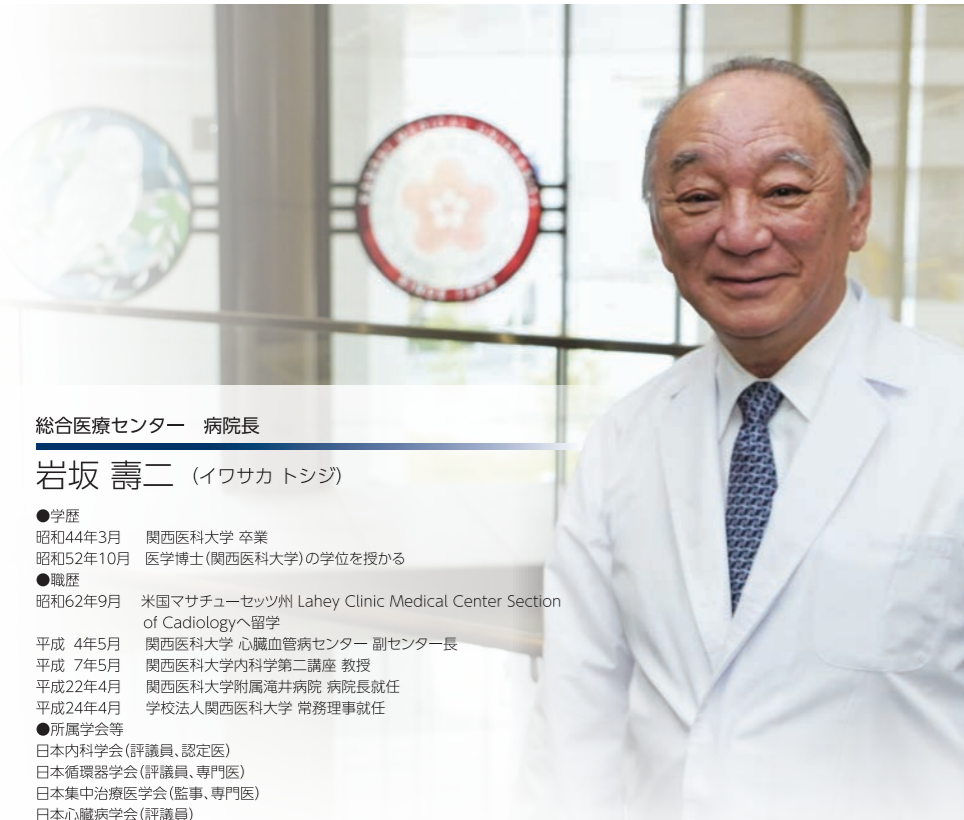
●学歴
 昭和58年 3月 関西医科大学卒業
 平成元年 3月 関西医科大学 大学院修了(生理学)

●職歴
 昭和58年 5月 関西医科大学 整形外科教室入局
 平成元年 4月 米国アイオワ大学神経内科 clinical fellow
 平成12年 5月 関西医科大学 整形外科教室 助手
 平成16年11月 関西医科大学 整形外科教室 講師
 平成17年 8月 関西医科大学附属岡山病院 整形外科 部長
 平成19年 7月 関西医科大学附属滝井病院 整形外科 部長
 平成21年 7月 関西医科大学 整形外科教室 准教授
 平成21年11月 関西医科大学附属滝井病院 整形外科 病院教授
 平成29年 4月 関西医科大学 整形外科講座 主任教授

●所属学会等
 日本整形外科学会:専門医、日本脊椎骨髄病学会:指導医
 日本手の外科学会:専門医、日本臨床神経生理学会:理事
 日本脊椎・インストゥルメンテーション学会:評議員
 日本脊椎・脊髄神経手術技術学会:理事
 日本MST研究会:最高顧問



これまで本院と2つの分院を、人工関節・脊椎関節・手の外科と、それぞれ得意とする分野に分けて機能させてきました。これからは3病院の配置を根本的に見直し、今まで以上に地域に役立つ整形外科として、名実ともに関西でトップを目指したいと考えています。



総合医療センター 病院長

岩坂 壽二 (イワサカ トシジ)

- 学歴
昭和44年3月 関西医科大学 卒業
昭和52年10月 医学博士(関西医科大学)の学位を授かる
- 職歴
昭和62年9月 米国マサチューセッツ州 Lahey Clinic Medical Center Section of Cardiologyへ留学
平成 4年5月 関西医科大学 心臓血管病センター 副センター長
平成 7年5月 関西医科大学内科学第二講座 教授
平成22年4月 関西医科大学附属滝井病院 病院長就任
平成24年4月 学校法人関西医科大学 常務理事就任
- 所属学会等
日本内科学会(評議員、認定医)
日本循環器学会(評議員、専門医)
日本集中治療医学会(監事、専門医)
日本心臓病学会(評議員)
日本心臓リハビリテーション学会(理事、評議員)等

患者さんへのアンケート調査結果
<http://www.kmu.ac.jp/takii/hospital/inquiry.html>

関西医科大学 総合医療センター 病院長 岩坂 壽二 新本館開設 1周年を迎えて。

2016年5月6日に新本館をオープンしてから、1年が経ちました。「大切な人を受診させたい病院へ」というスローガンとともに、新生「総合医療センター」の1年を、病院長に振り返っていただきました。

院内調剤への切り替えは 衝撃的なニュースに。

●この1年で印象に残った変化は？
すべてが印象深いことばかりですが、外来患者さんの調剤を院内に切り替えたことは、内外に衝撃を与えたようです。最初は利用者が40%くらいでしたが、今では80%を超えるレベルにまで達しています。多くの患者さんに、医療費が安くなることなどのメリットを、ようやく理解していただけたようです。効率化をさらに進め、待ち時間30分以上にお渡しできる割合も74%になりました。医師と直結しているため、薬剤師の説明にも重複やムダがありません。

どんな情報も隠さない 開かれた病院であるために。

●患者さんの評価は？
当センターのホームページを見ていただくとかかるのですが、すべての患者さんを対象に行った満足度調査の結果を発表

「病院機能評価」を受審、 トップリンクで認定。

●その他で客観的な病院の評価は？
先日受審した「病院機能評価」では、ほぼすべての機能が水準以上のAクラスの評価を受け、とくに重症患者さんの管理と集中治療室では最高評価を得ることができました。

●これからの抱負は？

リエゾン精神医療をベースに、さらに先進で高度な治療を行ってまいります。来年にはサッカー場がすっぽり入るほどの広さを誇るホスピタルガーデンが完成し、憩いのある病院へ、さらなる進化を遂げる予定です。

小児外科 診療科長 教授 平成29年6月1日 着任 小児外科 診療科長 教授 土井 崇 手術が必要なお子さんを ひとりでも多く治したい。

順天堂大学の准教授を経て、6月1日に、当病院小児外科の診療科長として着任いたしました。ハードなイメージがあるせいか、小児外科はなり手の少ない診療科です。しかし実際には、チャレンジングでやりがいのある科でもあります。

なぜ小児外科志望の 医師は少ないのか。

小児外科は新生児から15歳までという年齢制限はありますが、診療対象となる臓器は非常に多岐にわたります。脳と目、心臓以外のほとんどの臓器を診なければなりません。年齢の制限と違って、生まれたばかりの赤ちゃんも15歳の子どもの体では、違う臓器を扱うほどの大きな開きがあります。しかもひとりの医師がすべてを扱い、手術でしか治せないお子さんだけを治療します。ご両親の期待を励みに思うか、プレッシャーに感じるかで、小児外科という仕事の醍醐味の感じ方が違ってきます。小児外科志望の医師が少ないのは、後者の気持ちを持ってしまっている人が多いからかもしれません。

目がキラキラしている 先輩医師に憧れて。

私が小児外科医になろうと決めるときは順天堂大学6回生の12月末のことです。それまでは、脳神経内科で大脳基底核の研究を続けることに、何の迷いもありませんでした。ところが、たまたま小児外科の食事に参加したことで、私の進路は変わったのです。食事に参加した30分後には、小児外科医になろうと決めていました。そこには40、50代の先輩医師たちがいたのですが、仕事の話を時に熱く、時に子どものように無邪気に語る彼らの姿に、すっかり魅せられてしまったのです。どんなにキャリアを重ねても目をキラキラさせて夢を語る、そんな熱量のある医師になりたいと心から思っていました。あの頃の気持ちは今も変わっていません。

ご両親が大事な お子さんを安心して 託せる小児外科医に。

小児外科の手術はデフォルトの手術がひとつもありません。経験したことのない症例に遭遇するのは日常茶飯事です。今から思うと、常にチャレンジングな小児外科医の仕事の本質が、私を魅了した先輩医師たちの目をキラキラと輝かせていたのかもしれない。小児外科医に求められるスキルは外科医としての技術や知識が優れていることだけではなく、患者さんやそのご家族との信頼関係をいかに強固に築き上げていくかも大事だと思います。「この先生になら、かけがえのないわが子の命を預けて大丈夫だ」と思っていただけのよう、インフォームドコンセントには何よりも時間をかけて取り組んでいます。同様に、「この先生になら、

小児外科 診療科長 教授

土井 崇 (ドイ タカシ)

- 学歴
平成14年3月 順天堂大学医学部 卒業
平成18年3月 順天堂大学大学院 医学博士号取得
平成23年6月 アイルランド国立University College Dublin大学院 卒業 PhD取得
- 職歴
平成14年3月 順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児外科 研修医
平成19年4月 順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児外科・小児泌尿生殖器外科 助教
平成24年1月 順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児外科・小児泌尿生殖器外科 准教授
平成29年6月 関西医科大学附属病院 小児外科 教授・診療科長





消化器肝臓内科 診療部長 教授

西尾 彰功 (ニシオ アキヨシ)

●学歴
昭和56年3月 京都大学医学部 卒業
平成6年11月 医学博士号取得

●職歴
昭和56年5月 天理よろづ相談所病院 前期研修医
平成6年 4月 京都大学医学部 光学医療診療部 医員
平成6年10月 カリフォルニア大学デービス校 リサーチフェロー
平成8年12月 天理よろづ相談所病院 消化器内科医員
平成15年6月 京都大学医学部附属病院 光学医療診療部 助教授
平成20年4月 関西医科大学附属滝井病院 消化器肝臓内科 准教授
平成21年4月 関西医科大学附属滝井病院 消化器肝臓内科 病院教授
平成28年5月 関西医科大学総合医療センター 消化器肝臓内科 病院教授
平成29年4月 関西医科大学総合医療センター 消化器肝臓内科 診療部長

●所属学会等
日本内科学会 総合内科学専門医・指導医、地方会評議員
日本消化器病学会 専門医・指導医、学会評議員
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医、学会評議員
日本肝臓学会 専門医・指導医
日本消化器免疫学会 評議員

京都大学病院より、平成20年に関西医科大学第3内科に准教授として着任し、平成21年に病院教授となり、今年4月1日に関教授の後任として消化器肝臓内科部長に就任いたしました。

消化器肝臓内科 診療部長 教授
平成29年4月1日 就任
消化器肝臓内科 診療部長 教授 西尾 彰功

**専門性を発揮しながら、
全人的医療を目指して。**

専門性の高い診療と
全人的医療の両立を
モットーに。

消化器肝臓内科は、消化管（食道・胃・腸）・肝臓・胆臓・膵臓の領域を対象とする診療部門です。当科の医療スタッフは消化管・肝臓・胆臓の3つの分野に分かれて、それぞれ専門性の高い診療を行っています。特定の部位や疾患に限定せず、患者さんの心理や社会的側面なども考慮し、個々人に合った総合的な疾病予防や診断、治療を行っています。全人的医療にあたることをモットーに、常に患者さんにより良い医療を提供できるよう努めています。

がんの早期発見と
治療のために
内視鏡センターを開設。

データでは日本人の2人に1人ががんにかかり、3人に1人が死亡しています。そのトップ5の疾患のうち、4つを消化器領域（胃・大腸・肝臓・膵臓）が占めています。しかし、消化管（食道・胃・大腸）のがんは早期に発見すれば、手術を行わずに内視鏡的切除で根治が可能です。当科ではこの内視鏡検査による早期発見と治療に積極的に取り組んでいます。とくに昨年の新館開院と同時に内視鏡センターを開設したことで、設備・機器類も更新され、より快適な環境で内視鏡検査・治療を受けていただけるようになりました。

「心技体」の充実が
医療者には不可欠。

進化する医療の知識と技術を常に身につけるように努力することは当然のことですが、患者さんの気持ちに寄り添った心配りを怠ってはいけなと思っています。日々の忙しさに流されたり、技術に偏ってしまったり、いちばん肝心な患者さんの心が見えなくなってしまう。また、体力の衰えに負けない身体づくりも大切になっています。私たち医療者は「心技体」の3つが揃って、初めて良い治療ができると考えています。

整形外科 診療部長 教授
平成29年4月1日 就任
整形外科 診療部長 教授 徳永 裕彦

**「受診して良かった」と
実感していただける整形外科に。**

関節の痛みを取り除き、
日常生活の質を改善。

患者さんの喜ぶ顔が、
私たちの励みです。

整形外科は多くの分野に分かれていますが、外傷などの一般整形外科はもとより、脊椎外来・股関節外来・膝関節外来・リウマチ外来・足の外科などの専門外来も開設し、多岐にわたる整形外科疾患に対応しています。最近の傾向としては外傷を扱うことは少なく、高齢化社会を反映して、60歳以上の方の脊椎・関節の慢性疾患などの手術を行うことが多くなっています。いずれも、内視鏡を使った低侵襲で、早い回復を目標とした手術です。切開手術の必要なケースもありますが、できるだけ低侵襲で患者さんに負担がからない治療を心がけています。

月・金の週3日は手術の日にしていて、トータルすると年間約1000件の手術を行っています。整形外科は死に直結することはないですが、痛みが治ったかどうか、歩けるようになったかどうか、患者さんの喜ぶ顔を見ることができると、逆に不満を残すか、その結果が明確に表れる治療です。だからこそ、患者さんが笑顔で退院されるとき、それが私たちの評価の証に思えるのです。設備面では昨年の病院リニューアル時に最新の機器やシステムを導入し、さらなる充実を図りました。とくにクリーン度が求められる人工関節の手術室は、チリの数が一般手術室の約10分の1を実現することで、高精度で精度の高い手術を可能にしています。現在その手術室が2部屋あり、脊椎と股

関節はこの手術室を使っています。

開業医の先生方との連携が
欠かせない診療科です。

腰痛などで受診された患者さんを検査して、その結果から保存的治療で十分だと判断した場合は、お住まいの近くの開業医の先生をご紹介しています。治療が日常になる場合、通院にかかる費用や時間なども患者さんの負担になるからです。ですがほとんどは、開業医やクリニックをすでに受診されている患者さんが先生方のご紹介で来院され、外科的治療で元気になり、かかりつけの先生のもとへ帰っていくというケースです。開業医の先生方との相互協力で、一緒に地域医療を支えたいと考えています。患者さんのこと、医療のこと、何でも気軽に相談ください。

整形外科 診療部長 教授

徳永 裕彦 (トクナガ ヒロヒコ)

●学歴
昭和56年 関西医科大学 卒業
昭和60年 関西医科大学大学院 入学

●職歴
昭和57年 関西医科大学整形外科学教室 入局
昭和58年 同教室 助手 入職
昭和58年 奈良県大和高田市立病院 出向
平成元年 関西医科大学 整形外科助手 入職
平成13年 同整形外科学講座 講師
関西医科大学附属香里病院 異動
同病院 整形外科 副部長
関西医科大学附属病院 勤務
平成17年 関西医科大学附属滝井病院 勤務
平成18年1月 同病院 准教授
平成21年8月 同病院 准教授
平成29年4月 関西医科大学総合医療センター 整形外科 部長
平成29年5月 同病院 整形外科 教授





超高齢社会に対応した地域包括ケアというシステムは、在宅ケアが中心となります。それを支えるために地域の医療機関が連携し、それぞれの規模と設備にあった医療の方向性を探りはじめているのです。大学病院にしかできないことを、地域の医療機関にしかできないことを組み合わせ、ご高齢の患者さんを診ていこうとしています。とくに私たちの業務は前方支援（地域からの紹介に対応した業務など）、後方支援（退院後、在宅で療養を継続される患者さんのサポートなど）、側方支援（地域医療機関との勉強会など）、相談支援（医療・介護相談、医療費相談など）という4つの柱で成り立っています。

**4つの支援を
充実させることが
私たちの業務です。**

地域医療連携部 部長
平成29年4月1日 就任

地域医療連携部 部長 徳原 克治

**地域包括ケアに貢献できる
急性期病院の役割を担って。**

**地域包括ケアに
貢献できる
大学病院の役割とは。**

地域包括ケアは地域の医療機関と介護施設、老人会といったボランティアを含めたみんなの互助で、お年寄りを診ていきたいと思います。というのが概念です。大学病院は地域包括ケアシステムのサークルの中にあるのではなく、その外に位置すると考えています。がんや心筋梗塞など、ふだんの健康維持のための医療では対応できないことが起きるとき、高次医療機関として担当させていただきます。高次医療機関です。すぐに治療にあたり、早期退院を実現させ、地域包括ケアのサークルにお戻しするのが私たちの役割だと考えています。

**「病院機能評価」に認定。
来年度の目標は
「地域医療支援病院」。**

当院は大阪府がん診療拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、大阪府災害拠点病院にも指定されていますが、この度より地域に頼られる病院になることを目指して、「病院機能評価」という制度を受審し、認定いただきました。全国の病院でも3割弱しか認定を受けておらず、レストラ業界というミシユラの星獲得に匹敵する快挙であると思っております。来年度は「地域医療支援病院」の認定に向けて、さらに地域連携と医療の充実を図っていきたく考えています。

地域医療連携部 部長

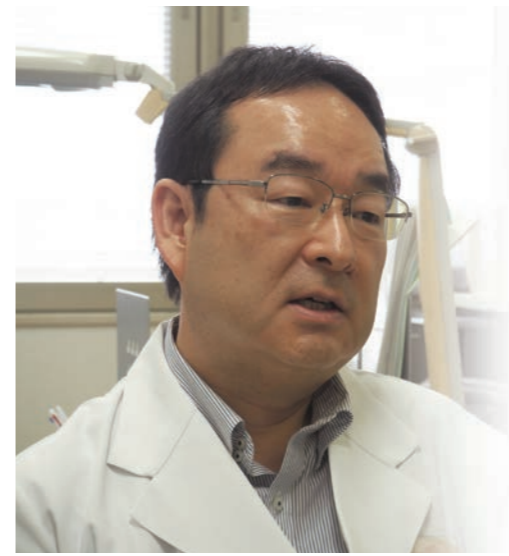
徳原 克治 (トクハラ カツジ)

- 学歴
平成8年 関西医科大学 卒業
平成20年 3月 関西医科大学大学院修了、医学博士取得
- 職歴
平成20年 4月 関西医科大学附属枚方病院にて消化器外科医として勤務
平成22年 7月 関西医科大学附属枚方病院にて下部消化管外科に専従
平成24年 4月 関西医科大学附属枚方病院 消化器外科診療講師
平成26年 4月 関西医科大学附属滝井病院 外科診療講師
平成26年 12月 関西医科大学附属滝井病院 地域医療連携部 副部長
平成27年 4月 関西医科大学附属滝井病院 がん治療緩和ケアセンター 副センター長
平成27年 5月 関西医科大学附属滝井病院 外科 講師
平成28年 5月 関西医科大学総合医療センター 外科 病院准教授
平成29年 4月 関西医科大学総合医療センター 地域医療連携部 部長
- 所属学会等
日本外科学会専門医・指導医 / 日本消化器外科学会専門医・指導医 / 日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器・一般外科) / 消化器がん外科治療認定医 / 日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医 / 大腸肛門病学会専門医 / 身体障害者福祉法指定医(ぼうこう・直腸機能障害) / 大阪府難病指定医 / 日本内視鏡外科学会評議員 / 近畿外科学会 評議員

2025年に、団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、人類がこれまでに経験したことのない超高齢社会を迎えます。それに備えて、私たち地域医療連携部は、2次医療圏である北河内と大阪市内北東部の6医師会(守口市、門真市、大阪市旭区、城東区、鶴見区、東淀川区)と連携しながら、地域医療の大変革に立ち向かっていくこととなります。



ホームページでは「病気の辞典」や「各診療科の“イチオン”」などさまざまな情報を患者さんにもわかりやすく紹介しています。



不整脈治療センター センター長

高木 雅彦 (タカギ マサヒコ)

- 学歴
平成元年 大阪市立大学医学部 卒業
平成7年 大阪市立大学大学院医学研究科博士課程 卒業、医学博士授与
平成9年-12年 国立循環器病センター 内科心臓部門(不整脈)国内留学
- 職歴
平成15年 大阪市立大学循環器病態内科学 助手
平成18年 大阪市立大学循環器病態内科学 講師
平成19年 関西医科大学 非常勤講師
平成25年 大阪市立大学循環器内科学 講師
平成26年 大阪市立大学心臓血管疾患集中治療部 副部長
平成27年 大阪市立大学循環器内科学 准教授
平成29年 関西医科大学内科学第二講座 診療教授
関西医科大学総合医療センター 不整脈治療センター センター長

**不整脈治療センター センター長
平成29年4月1日 着任**
不整脈治療センター センター長 高木 雅彦
正しい理解と先進の医療を。

**不整脈は血管の
病気ではありません。**

不整脈は心臓を栄養する血管の病気と勘違いされている方が少なくありません。心筋梗塞や狭心症は心臓を栄養する血管の病気ですが、不整脈は心臓を動かしている電気系統の異常です。基本的には別の病気なのです。2000年くらいまでは、薬によって症状を抑えるしか治療方法がありませんでした。抗不整脈薬も次々に開発されていますが、薬物治療はあくまでも対症療法でしかなく、多くの場合は一生飲み続けなければなりません。根治療法ではないのです。しかし、不整脈を根治するためのカテーテル治療がスタートしたことで、世界的に根治する手法として進化し、普及してきました。心臓血管用のカテーテル治療とは、アブローチ

**なぜ不整脈治療が、
いま注目を集めるのか。**

近頃、脳梗塞を合併する心房細動という不整脈がマスコミなどに取り上げられることが多くなりました。心臓のリズムが1分間に300回以上の速さで不規則に拍動する症状です。心房細動自体は命に関わるような重症な不整脈ではありませんが、脳梗塞を引き起こす原因となっており、元プロ野球読売巨人軍の監督や元サッカー日本代表監督も心房細動という不整脈が原因で脳梗塞になりました。

**最先端、最善の
不整脈医療の提供を。**

不整脈は大きく分けて3つの種類があります。脈が速くなる「頻脈」、遅くなる「徐脈」、さらに脈が飛び「期外収縮」です。当センターでは、頻脈性不整脈に対するカテーテル治療、徐脈性不整脈に対するペースメーカー治療、重症心室不整脈により突然死を予防する除細動器(ICD)植え込み術、重症心不全に対する心室同期療法(CRT)を行っています。とくにペースメーカーは今秋より小型で長寿命の最新型のものを導入する予定です。いずれの治療においても、最先端・最新の機器を用いてより安全で低侵襲の治療に努めています。

私は20年間、国立循環器病センターや大阪市立大学において不整脈診療に従事し、とくに大阪市立大学においては不整脈治療グループを立ち上げました。この経験を生かして、このたび関西医科大学総合医療センターに不整脈治療センターを立ち上げさせていただきました。不整脈で困っている患者さんに、最新の医療情報と技術を提供できるように精進してまいります。



薬剤師11名による チームワークがカギ

199床の香里病院では11名の薬剤師が全員で協力し、様々な業務を行い、堅固なチームワークで連携プレーを生み出しています。今回はその秘訣をお伺いしました。



スペシャリスト
インタビューシリーズ

② 薬剤師

Specialist Interview



薬剤部 科長 金光 盟子 (カネミツ メイコ)
薬剤部 部長 河野 えみ子 (コウノ エミコ)
薬剤部 副科長 山下 博民 (ヤマシタ ヒロミ)

薬物療法を 適正に行うための情報共有

香里病院薬剤部の特徴は？

河野 ● 少人数のため兼務体制となっています。調剤業務、病棟業務、医薬品情報（以下D.I）業務、薬品管理業務など多種多様な業務をお互いに協力して行っていますので、チームワークは大切です。また、患者さんの薬物療法を支援するためには、患者情報を共有することが非常に重要であると考えています。

患者情報の共有とは、具体的には？

金光 ● 病棟担当者は共有する必要のある患者情報を調剤担当者やD.I担当者に予め提供しています。調剤担当者は検査値や併用薬、薬歴等を確認して調

剤していますが、疑問がある場合には病棟担当者に連絡をとって確認しています。またD.I担当者は適宜、薬剤の正確な情報を提供しています。

山下 ● D.I業務で大切なことは、個々の患者背景をもとに、より安全で効果的な薬物療法の情報を提供することです。そのために、患者情報の共有に配慮しています。

チーム医療での薬剤師の役割は？

山下 ● 他の医療スタッフと協力しながら、薬物療法の専門家として患者の治療に貢献することです。

金光 ● チーム医療の一員として薬剤師の職能を発揮していくためには個々の業務を積み重ね、日々研鑽していくことが大切ですが、薬剤部内での雰囲気や環境づくりも重要と考えています。

薬剤部の今後の目標は？

河野 ● 薬剤師一人ひとりのレベルアップが薬剤部の総合力を高めることにつながると考えています。そのためにも適切な薬物療法を提案できる薬剤師を育成していきたいと思っています。また、香里病院の基本方針のひとつである「地域に根ざした病院」を目指し、地域の開局薬剤師との連携や交流を大切に、信頼関係をより深めていきたいと考えています。

「リウマチ診療といえば香里」と言っていたただけるように。

整形外科 診療部長 上田 祐輔
平成29年4月1日 就任

附属病院勤務時代から関節リウマチを私のライフワークにしてみました。これまで香里病院はリウマチを専門に扱う医師がいませんでしたが、これからはリウマチ治療に強い病院として、地域の先生からも信頼される診療を目指してまいります。

薬物治療と手術治療、 両輪を生かした リウマチ診療を。

近年、薬物治療の進歩が著しい関節リウマチ。多くの整形外科医がこれに取り残されるかたちで、リウマチ診療から撤退する傾向にあります。しかし、手術治療でしか治せないケースも少なくありません。手術治療も薬物治療と同じく、日進月歩の進化を遂げています。関節の病変は、関節のスペシャリストである整形外科医が、薬物と手術のどちらかに偏ることなく、適切な治療にあたるべきだと考えます。先進の手術治療と薬物治療は、両輪を揃えて初めて万全となるからです。

関節リウマチの治療が 私のライフワークです。

大学院修了後10年余りの間、手術と薬物の両輪について研鑽を積んでまいりました。附属病院勤務時は、前任の主任教授である飯田寛和先生のご指導のもと、診療業務のほとんどを人工関節手術にあててきましたが、今後はリウマチ専門医として、股関節に限らず全身のあらゆる関節（肩・肘・手首・手指・膝・足首・足趾）を私の担当するフィールドとして、手術治療と薬物治療の両輪を組み合わせた診療を行ってまいります。

「リウマチを診ない病院」から 「リウマチ診療の香里」へ。

附属病院から香里病院へ異動する際、幾人かの患者さんから「香里はリウマチを診ない」と伺いました。私が着任することによって、これからは「リウマチといえば香里」と言っていただけのように、努力してまいります。当科は附属病院や総合医療センターのような各バースのスペシャリストを配置した



整形外科 診療部長

上田 祐輔 (ウエダ ユウスケ)

- 学歴
平成11年 関西医科大学医学部 卒業
平成15年 関西医科大学大学院医学研究科 入学
平成19年 関西医科大学大学院医学研究科 修了
- 職歴
平成11年 関西医科大学整形外科教室 入局
関西医科大学附属病院 研修医
平成13年 関西医科大学附属西二ツタウン病院 整形外科
平成19年 関西医科大学整形外科講座 助手
関西医科大学附属滝井病院 整形外科
平成20年 関西医科大学附属滝井病院 整形外科病棟 医長
平成24年 関西医科大学附属枚方病院 整形外科
平成26年 関西医科大学整形外科学講座 教育医長
平成28年 関西医科大学整形外科学講座 講師
平成29年 関西医科大学香里病院 整形外科 診療部長
- 所属学会等
日本専門医機構・日本整形外科学会 整形外科専門医
日本整形外科学会 リウマチ医
日本リウマチ学会 専門医
日本骨粗鬆症学会 認定医

陣容ではありません。しかし、トータルに関節の疾病を捉えられる環境となるリウマチには、最適な病院と言えるのではないのでしょうか。「身体の節々が痛い」とご相談の患者さんを、「香里で診てもらいましょう」と気軽に紹介いただけるよう、地域の先生と一緒に、患者さんに向き合った診療を行っていききたいと思います。



現在のOMMビル



OMMビルは1969年に竣工。当クリニックもOMMメディカルセンターという名で、長く親しまれてきました。

開院50周年を迎え、 関西医科大学の予防医療の拠点として、 さらに進化します。

天満橋総合クリニック 院長 浦上昌也

翌年に大阪万博の開催を控えた昭和44年11月1日。高度経済成長の真っ只中で、旧OMMメディカルセンターは開院しました。まず各科の専門医集団による都市型の総合外来診療を開始しました。その後、予防医療の重要性にいち早く着目して、日帰りの人間ドックや健診を開始しました。

当時、宿泊を伴う人間ドックはすでに一部の病院で行われていました。しかし、入院施設を持たないクリニックが、人間ドックや各種健診を外来部門から完全に分離して行う体制は、大阪府下のみならず全国的にも先進的な試みでした。現在、全国各地で見られる総合健診センターの原型です。いわば、総合健診の先駆的な役割を果たし、現在にいたるまで多くの実績を重ねてきました。当クリニックは、関西医科大学の附属病院と大阪市内北東部の医療圏を結ぶ結節的な位置にあります。受診者は京阪沿線のみならず、大阪府下はもとより広く近畿圏に及びます。

高度な内容の検診も 受け入れるように 進化しています。

今年度より、大阪府下の公立高校全生徒が対象の心臓病検診の3次検診を独占的に行う機関に指定されました。約600名の高校生の3次心臓検診を担当します。3次の検診まで残ってくる理由は一律ではありません。

今後のビジョンは 関西医科大学の 予防医療センター化。

当クリニックの目標は、単なる健診機関に終わることなく、疾病のリスク評価、早期発見から病気の予防のための治療、さらに健康増進プログラムも取り込んだ予防医療センターとなることだと考えています。そのため、総合健診センターと外来部門、さらに関西医科大学附属病院の健康科学センターとの連携を強化しています。産業医活動にも力を入れ、近隣の企業や公的機関の産業医を多く受託しています。メンタルヘルズ科を持ち、精神科の専門医が産業医活動を支援しています。企業の特健健診やストレスチェック制度への対応も行っています。企業の要望に応えて、保健師の企業への訪問保健指導を開始しました。これまで多くの研修医や医学生を受け入れ、臨床教育を行ってきましたが、来春には、関西医科大学の看護学部がオープンし、その2年後には保健師を目指す学生たちの臨床実習がここでスタートします。今後、予防医療の教育、臨床実習にもさらに力を入れていきます。

香里病院の夕方診療

夕診ドクター3人のご紹介



循環器内科医
吉田 進 (ヨシダ ススム)

**不整脈治療は
お任せください。**

2017年6月より内科夕診(火曜日)を担当させていただいています。現在、関西医科大学附属病院循環器内科に所属し、とくに不整脈の患者さんに対する薬物治療やカテーテル治療を中心に診療を行っています。不整脈の治療は、経過観察が良いものから致死的なものまで幅が広く、治療法には、薬物治療・カテーテルアブレーション・ペースメーカー等のデバイス治療などがあります。患者さんにより良い医療を提供するために、その患者さんに合った治療を提供する必要があります。医師と患者さんが一緒に疾患に向き合える診療を目指していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。



循環器内科医
村川 紘介 (ムラカワ コウスケ)

**循環器疾患が
専門です。**

2016年5月より水曜日の内科夕診を担当させていただいています。普段は関西医科大学附属病院の循環器内科に勤務しています。循環器内科の領域は現在、心不全・虚血性心疾患・不整脈などに分野化されており、その中でも虚血性心疾患や不整脈の治療に関しては、カテーテル治療が主体となっています。しかし、カテーテル治療を行う病院の多くは、日中に受診していただくことはなりません。その点、香里病院では夕診での診察が可能ですし、必要があれば附属病院でスムーズな検査・治療が行えます。ご紹介いただけましたら、迅速に対応させていただきますので、今後ともよろしくお願いたします。



神経内科医
中村 正孝 (ナカムラ マサタカ)

**神経内科診療を
担当します。**

2016年4月より、火曜日の夕診に神経内科専門医による神経内科診療を開始しています。普段は関西医科大学総合医療センターに勤務し、頭痛・しびれ・めまい・認知症・パーキンソン病などの専門的な診療を行っています。地域の先生方には、日中の受診が困難で、仕事帰りや学校帰りに受診したい患者さんをご紹介いただけたらと思います。なお、入院が必要な症例や当院で精査困難な症例は、附属病院や総合医療センターと連携し、対応してまいります。何卒よろしくお願いたします。

各専門医による正確な診断を 信条として進化する 総合健診センター。

現在、総合健診センターを主とした予防医療部門がクリニックの中核となっています。今後、その重要性はますます大きくなると思われまます。当クリニックの総合健診は、問診を重視し、各分野の専門医による丁寧な診察、正確な診断を信条としてきました。過去に、医師の問診や診察を軽視し、コンピュータによって処理された臨床検査データに過度に依存した自動化健診がブームになったこともありましたが、当クリニックはあえてその波に乗りませんでした。公的な機関の人間ドックの指定を多く受けているのは、そのような当クリニックの姿勢と実績を評価していただいているからではないでしょうか。公立学校共済組合、病院の職員を多く抱える地方職員共済組合、さらには大阪府下の医師会や歯科医師会など、医療に携わる人たちの健診機関としても指定を受けています。総合健診センターは、時代の変化に対応し、多様化する受診者の健康ニーズを受け止め、個々の将来のリスクに応じて個別化された、高度で良質な総合健診を目指して進化しています。

香里病院の 夕方診療

夕方診療科	月	火	水	木	金
内科	●	● (吉田・中村)	● (村川)	●	●
小児科	●	●	●	●	●
外科(血管外来)	●				
乳腺外科	●			●	
整形外科		● 初診のみ			
皮膚科	● (第2・第4)				
腎泌尿器外科	●		●	●	
耳鼻咽喉科	●	●		●	●
婦人科		●		●	

日中に受診する時間が取れない方のために、夕方診療を実施しています。

内科・小児科は平日毎日、他の科も曜日を限って受診できます。どうぞご利用ください。

受付時間：月曜日から金曜日
午後5時から午後7時(初診・再診)

地域医療機関からのご紹介であれば、午後8時まで受け付けています。